

■ 議題

今回の審議委員会は、4月18日（木）午後1時45分頃放送の熊本地震後、現地にボランティア活動に入った「NPO法人Vネットぎふ」の川上哲也様に田中曜子ナビゲーターが電話インタビューした模様と、6月12日（日）に行われた「飛騨高山ウルトラマラソン」で、ともみナビゲーターと井谷麻希ナビゲーターがレポートした模様、そして、毎年ウルトラマラソンに参加している弊社代表取締役社長の大岩が、走りながら生レポートした模様を聴いて審議に入った。

※ 『飛騨高山ウルトラマラソン』のレポートは、計8回放送。

■ 審議内容

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取していただいた番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、試聴したコーナーの内容や、普段聴いている放送についてなど、順次、意見ををお願いしたい。

原委員： 『ウルトラマラソン』のレポート中で、大岩社長の走りながらのレポートは「大変さ」がよく伝わった。しかし、走りながらではなく、その時だけ止まってレポートすればよいと思った。来年も参加されると思うが、無理をせず、大岩社長のやりやすい場所でレポートをすればよいのではないかと思った。

川上哲也さんの電話インタビューは、川上さん自身が慣れているので、比較的状況などがわかりやすく伝わってきたが、話の最後に、川上さんの感覚で十分なので、今、現地では何が必要なのかを教えて欲しいと思った。聴いている自分たちにしてみると、必要なものがわからないと協力する事が出来ない。物を送るぐらいでしか協力できないので…。もちろん、必要の無い物もあると思うので、今、必要なものは何なのかなどの情報を、最後に川上さんに聞けるとよいと思った。

『ウルトラマラソン』のともみナビゲーターのレポートは、丹生川のエイドステーションからのレポートだったが、エイドステーションは何キロの地点だったのかを伝えていたか？

会社側： 伝えていない。

原委員： 私はこの日、早く起きて、家の前でランナーのみなさんを応援したのだが、今、どの辺りを走っているのか気になった。だから、レポートしている丹生川のエイドステーションは、何キロ地点なのかを教えて欲しかった。

その後の井谷ナビゲーターのレポートは慣れているのもあってか、100キロを完走した人に対してうまくインタビューしており、さすがベテランと思った。今後、経験の浅いナビゲーターは、ベテランのナビゲーターの良い所を聴いて、盗んでいって欲しいと思う。

毎回『ウルトラマラソン』の生レポートを聴いていると、状況がよくわかるので、毎年レポートをして欲しい。できれば後日、走った方に感想（後日談）などを聞いて放送できるとよいと思った。電話インタビューでもゲスト出演の形でもよいし、マラソンに参加した大岩社長も交えて、話しをすればよいと思った。

大萱委員長： 『ウルトラマラソン』のレポートについては、ナビゲーターはリスナーが「もう知っている」という感覚で細かい説明は必要ないと思い込んでレポートをしてしまいがちだが、リスナーは「何も知らない」という思いでレポートや取材をするとよいのではないか。

田中委員： 川上哲也さんのインタビューは、冷静かつ丁寧に伝えていたと思う。しかし、先ほどの意見でもあったように、高山にいる方に対して「何が必要なのか」「どのような物資が必要なのか」などを伝える話があればよかったと思う。

『ウルトラマラソン』で、丹生川エイドステーションからレポートしたともみナビゲーターは、たぶん伝えたいことがたくさんあったのだと思うが、一方的すぎて話がわかりづらくなっていた気がした。せっかくエイドステーションにいるので、ボランティアの方の声も聴けたらよいと思った。

井谷ナビゲーターはさすが慣れていて、うまく相手のことを引き出しているなと感じた。

大岩社長のレポートは、走りながらのレポートということもあり、非常にリアルで大変さが伝わった。この状況でランナーの方に話を聞くことは難しいと思うが、来年は、配分やタイミングも考えながらインタビューできることを期待している。

溝上委員： 今回の川上さんのインタビューは、田中ナビゲーターが、地震関連の話をした後にインタビューしたものなのか？それとも突然、電話インタビューしたものなのか？

会社側： この時は、私（制作部：宮ノ下）と一緒にスタジオに入っていたが、前フリもなく、唐突に電話インタビューしていたので、放送が終わった後、指摘をした。

溝上委員： 聴いていて突然紹介するので「あれっ」と思った。私は、番組審議委員会の次第に聴取内容が記載されているので、どのようなことが流れるかが分かったが、初めて聴く方にはわかりづらいと感じた。電話インタビューの続きだが、川上さん以外にもボランティア活動に行っている方がみえると思うので、他のボランティアの方にも話を聞くことができれば、いろいろな目線で聴くことができ、よりリスナーにも伝わったのではないかと思う。

『ウルトラマラソン』のレポートに関しては、今年の番組審議委員会の時にも、『ウルトラマラソン』のレポート内容を聴取したと思うが、その時は、丹生川のエイドステーションで太鼓の音が流れたりして臨場感があった。しかし今回は、太鼓の音などはなかったもので、その場の雰囲気は伝わらなかった。もっと臨場感があってもよかったと感じた。先ほど原委員から「後日談」という話があったが、スタート地点で意気込みなど事前に録音して、後で放送してもよいと思った。

大萱委員長： 事前に録音する事は難しいことなのか？

会社側： 丹生川の件は、たまたまりポートの時、太鼓の音などが出ていなかったところに電話が繋がったと思う。

スタート地点で意気込みなどを事前に録音して放送する件は、毎年、ウルトラマラソンのレポートを行なっているが、何年か前のレポートの時に、ランナーに意気込みなどを事前に録音して放送した経緯がある。今年も、スタッフの動きの都合で、レポートができなかった箇所ができてしまった。来年以降の課題だ。

大萱委員長： 今回から新しく委員になった川原委員、どのようなことでもよいので意見をどうぞ。

川原委員： 普段、ラジオよりテレビで情報を得ていることが多いが、久しぶりにラジオを聴いて、テレビのように映像がないので、ラジオはイメージがしづらい。しかし、川上さんの電話インタビュー（活動内容や天気などの情報）を聴いて、イメージしづらい所を細かく説明していてわかりやすいと思った。しかし、実際に被災地に入った時の川上さん自身の思いというか、私は、被災地に入ったことがないので、現地に入ってどう感じたかをもう少し知りたいと思った。

『ウルトラマラソン』のレポートだが、ともみナビゲーターについては、地元の子どもがたくさん応援に来ていたみたいなので、子どもたちの声を聴いてみたかった。

井谷ナビゲーターのレポートは、100キロで1位になった方のみだったが、インタビューをすることができて良かった。その中で「1位の方は昔、どのようなスポーツをしていたのだろう」とか「陸上部だったのか」など1位の方に対する興味が湧いてきたので、後日、1位の方に関する事を放送できればよいと思った。

大岩社長のレポートは、走りながらのレポート自体が凄いと思ったし、つらいのに、現在の自分の体調やギャラリーの状況などを伝えていたので臨場感が伝わった。

大萱委員長： 大岩社長、来年も頑張ってレポートをして欲しい。
ところでウルトラマラソンについては、その後、放送をしたのか？

会社側： 1位の方に関してのプロフィールなどの情報は、市役所から入ってきてないので紹介をしていない。今後は、日を改めて電話をして話を聞きたいと思う。その辺りは高山市の観光課にも協力を得たい。来年の大きな課題にしたい。高山の方が1位だったら「スタジオに来て欲しい」と頼めば対応してくれると思うし、高山市以外の方でも、マラソンが終わった後、スタジオに来てくれれば話が聞けると思うが、疲れているので難しいと思う。今後出来ることは、後日談として1位になった方の「人となり」などを紹介できればと考えている。

大萱委員長： お願いしたい。

田谷委員： （田谷委員はウルトラマラソンを主催した高山市役所の職員）『ウルトラマラソン』に全面的に協力して頂き感謝している。また、何回にもわたりレポートを入れてもらいリアルさが伝わった。
レポートの個々の部分については、他の委員の方と同じで、ともみナビゲーターのレポートは、スタジオとの掛け合いにもなっていなかった。それにスタジオの掛け合いをするよりも、丹生川エイドステーションにいるボランティアの方や、ランナーの方と掛け合いをするほうが、リスナーは期待しているのではないかと思った。また、しゃべっている内容が一方向的に感じた。生レポートは実況中継する部分もあるので、よりリアリティーさが求められる。確かに、ランナーは次から次へと走り去っていくので、インタビューをしたり実況中継するのは難しいかもしれないが、エイドステーションではどのようなものが提供されていたり、どのような年齢層の方が応援にきたのか、また、ボランティアをしてくれ

た方の話とかを盛り込んで欲しかった。

話は変わるが、先ほど大岩社長からインターネットラジオの話（今後の予定の中で、今年の8月1日を目標にインターネットラジオを始める報告）が出たが、高山市としても非常に期待をしている。しかし、それ自体をどのように告知するかが大きな課題だ。

また、それを知ったリスナーがどのような気持ちで聴いてくれるのかが分からない。エリアが拡大されるので、今までローカルな部分を主体に放送しているヒッツFMとしては、これまで通りの番組編成で良いのか？それとも切り替えて（改編して）放送をしていくのか？…地元のリスナーならではの聴きたい部分と、地元以外のリスナーが聴きたい部分が出てくると思うので考えていく必要があると思う。新しいリスナーが、たまたまヒッツFMをインターネットラジオで聴いて、良かったからまた聴きたいと思ってくれるのか、クチコミなどでリスナーが増えていくのか分からないが、今までの番組編成で良いのかなど課題が山積だと思う。でも、それを乗り越えられたら、ヒッツFMは高山以外でもリスナーが増えていくのではないかな。

大萱委員長： インターネットラジオの告知について、今後、どのように広げていくのか教えて欲しい。

会社側： 現在、8月1日にインターネットラジオのサービスを開始することを、社内で決めただけ。社外の方に話をするのは今日が初めてで、プレスリリースやバナーで告知していくのかなど、これから考えていく段階で準備中。スポンサーには、以前、インターネットラジオについて問い合わせがあった際、飛騨地域以外でも宣伝ができるメリットがあることを伝えた。また、飛騨出身の方で、なかなか飛騨に帰れない方が「早くネット配信をやって欲しい」という要望もたくさんあった。市民時報（地元の情報紙）が自社の広告で「ふるさと定期便」みたいなものを出しているが、最初は当局もそのような形になると思う。その中で自分たちらしい「個性」を出していく必要があると思う。

一方で、普通に音楽を流して資料や情報を見てしゃべっているだけの放送では、名古屋や東京で放送している番組と変わりなく、わざわざインターネットでヒッツFMを聴いてもらえないかもしれない。流れている音楽も情報も、他の局で聴ける話では意味がないので、地元的话题を織り交ぜどううまくバランスを取っていくのが今後の課題となる。

中身について詰める一方で設備や権利関係の手続きなど準備を進め、固まった段階で、新聞やインターネット、その他の媒体に協力を得ながら「8月1日から始める」ことを紹介していきたい。例えば、広報高山（高山市で毎月1日と15日発行している情報誌）に「高山の情報が、8月

1日から毎日、全国で聴けるようになるので、高山に住んでいる方も、高山市出身で、現在、地方に住んでいる方にも、「ぜひ聴いてほしい」などということに掲載してもらおうとか、ヒッツFMを聴いてもらう為の努力をしていきたいと思う。行政をはじめ、他のメディアの方の協力を得ながら進めたい。

さらに、地元在住の方などでサイト（フェイスブック、ツイッター、ブログなどのSNS）を持っている方に「今度、ヒッツFMがインターネットで聴けるよ」とか「今度、私、ヒッツFMに出演するから高山以外の方も聴いて」など発信してもらおう方法もあると思うので、知恵を絞ってネット配信を広めていきたい。皆様にもアイデアがあれば、ぜひ知恵を借りたいと思う。ぜひお願いしたい。

大萱委員長： 市民の方も知恵やアイデアがあればお願いしたい。
ところで、ヒッツFMはフェイスブックなどはやってないのか？

会社側： フェイスブックはやっていない。ツイッターをやっているのみ。ブログは以前やっていたが、現在は休止中の状態。

田谷委員： 当然、広報高山を含め報道関係に知らせたいと思う。少なくとも広報高山で高山市民の方には知らせたいし、高山から地方へ行っている方たちに「ヒッツFMはインターネットラジオを始めた」ことを伝えてもらえるよう発信して欲しい。まずは、高山から地方の学校へ行った方や、仕事で転勤になった方、事情があって高山から地方に行った方たちは、ヒッツFMの存在をほぼ知っているわけだから、その方たちに「ヒッツFMがインターネットで聴けるようになった」ということを知らせたい。

要望だが、1週間の中でその方々に向けた番組を、30分位でよいので企画して欲しい。地方に行った方々が聴きたくなるような番組を作って欲しい。高山から地方にいった方の話題を取り上げるとか、逆に、地方の方が高山へ来た時に、インタビューや取材をして放送すれば、今までは聴くことができなかったが、これからは聴くことができるのだから、そのような方をターゲットにした番組を作って欲しいと思う。検討して頂きたい。

大萱委員長： インターネットラジオについて、他に告知の仕方はないか？高校を卒業する方には、チラシなどで告知したらどうか？お金がかかることだし、捨てられない程度のもので作成して配ればよいと思う。ぜひ、告知して欲しい。

安田委員： 皆さんと同じ意見なので「以下同文」というところなのだが、最初の熊本地震の電話インタビューは、川上さんはボランティア活動が慣れている印象をうけた。

ウルトラマラソンについては、限られた時間内でコンパクトにまとめていると思うし、3つのレポートを聴いて生レポートの大変さが伝わった。先ほどからの意見で、現場の臨場感というのがあったが、こうゆうところにスポットをあてて「裏レポート」なんてやると、マラソンの全体像が浮かんでくるような気がする。

また、大岩社長のレポートは過酷な状態でレポートをしていて大変ご苦労だった。

要望として、終わった後、実際に体験された方のコメントを集めて特集を組んで欲しい。生の声というか、心の声が聴けるのではないかと思う。しかし、今回、レポートを聴いていて、ラジオで臨場感を伝えることは、映像がない分大変難しいと感じた。臨場感ということになると、時間的な制約があるが、応援団、ボランティアの声を盛り込んでもらおうと、華やかな中継ができるのではないかと思った。

大萱委員長： 毎回言っているが、警察の方（安田委員は高山警察署の職員）には「還付金詐欺」などの情報や、これから夏に向けて交通量が増えるので、遭ってはならないが交通事故は発生した場合、特に、主要道路の国道41号、158号が止まった時の情報をぜひお願いしたい。

安田委員： 6月に入り交通事故も昨年に比べ件数が増えているし、1週間前には、高山市内で大きな事故が発生し1人の方が死亡している。

大萱委員長： ぜひ連携を密にとって頂き、迅速な対応をお願いしたい。他には何か意見があるか？

原委員： 前回にも話をしたが、ヒッツFMが聞えないエリアがある。特に高速道路（東海北陸自動車道）の清見から荘川あたりが聞こえない。車線の4車線化に向けて、高速道路を利用することが多くなってきているので、なんとか、荘川のあたりからヒッツFMの放送が入らないものなのか？放送が入って、さらに看板を立てれば宣伝にもなるし、サービスエリアなどで、チラシや番組表、ポスターなどを置いたりして宣伝することができる。それと、事故などがあつた時に情報が必要になってくると思う。だから、高速道路にもヒッツFMの放送が入るようにして欲しい。以前、高速道路で実際に渋滞していて、情報がないので何が起きているのかわからなかった。その時に地元のヒッツFMを通じて情報が入ってくると安心できる。今後、高速道路でもヒッツFMが聴ければ、よりPRがし

やすくなる。確かに、クリアする部分がたくさんあると思うし、今回は出席していないが国土交通省の方も委員会のメンバーにいますので、関係者をお願いをしていただき、このエリアをカバーしてもらいたいと切実に思う。

大萱委員長： 高速道路のトンネルについては、放送が聴けるラジオ局もあるけどどうなのかな？

会社側： それぞれの道路管理者が設置するもので、どこの電波を拾うかということについては、われわれでは関与できない。トンネル内の再送信がある時は、それぞれのトンネルの管理者もしくは工事する時の業者から、再送信の同意書が送られ、それに対してわれわれがハンコを押せば、ヒットFMもトンネルの中で放送できるということになる。県や、高山市など、それぞれの管理者が、トンネルの長さなどをみて再送信をするかどうかということになるかと思う。

大萱委員長： いろいろ模索して荘川あたりまで聴こえるとよいが、長期の課題になりそうだ。
ところで技術的なことになるが、『ウルトラマラソン』のレポートは携帯電話で放送していたと思うが、大岩社長の音声はけっこうクリアに聞えたし、川上さんも熊本県からだけど、キレイに聞こえていると思った。しかし、ともみナビゲーターの携帯電話は、非常に電波状況が悪いのだけどどうしてなのかな？

会社側： ともみナビゲーターは個人の携帯電話で、比較的新しいスマートフォンを使用していると思う。たまたま電波の悪い所で繋がったのではないかなと思う。ちなみに、井谷ナビゲーターのレポートは会社の携帯（ガラ携）を使用し、それに、マイクセットを繋げてレポートをした。会社の携帯は1台しかないので、井谷ナビゲーター以外は個人の携帯電話で対応してもらった。場所によって音質の差が出たのかと思う。
また、先ほど報告した先回の番組審議委員会の意見の中で「3分位でレポートが終わるのは短いのではないかな」という指摘については、電話や回線の状況によって音質が非常に異なるため、例えば6分から7分もの間、携帯電話で話すのは正直つらい時がある。今後、携帯電話の技術が向上し、電波状況がどこにいてももっとクリアになればよいし、「スカイプ」や「ライン」の電話の方がクリアなら、そちらを使用した方がよいのかもしれない。

大萱委員長： 単独でレポートをしている時は仕方がないと思うが、複数でレポートをしている時は、相性もあると思うのでメーカーも含め、同じ携帯電話で対応した方がよいのかもしれない。検討してほしい。
他に意見が無ければ、これで閉会する。

会社側： 本日は貴重な意見を頂き感謝している。ますます番組に反映したいと思う。

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

6月14日 番組審議委員会の席上で説明

■ その他の参考事項

次回開催日 平成28年8月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）